

アーカイブ／覚書

contrabass complex | 仕様書（PDF）

作成・更新：2023年

この資料は、contrabass complex という活動の中で作成された仕様書です。

本活動は、コロナ禍という特殊な状況下において、補助金を活用した公演を行うために企画・実施されました。当時、音楽活動そのものが大きく制限されるなかで、コントラバスという楽器の汎用性、そして音楽が商業音楽・創作音楽・民族音楽という在り方の組み合わせとして存在していることを、改めて言語化し、共有する必要を感じていました。本仕様書は、そのためにまとめられた思考と構想の記録です。

現在の創作表現活動を説明するための資料ではありませんが、ここで整理された考え方の一部は、現在、定期的に行っているコントラバスセッション、コントラバス複数でのイベントなどの基層として引き継がれています。本資料は、当時の状況と思考をそのまま残すものとして、覚書として公開します。

2026年 1月25日

CONTRABASS COMPLEX

主宰

能見 誠

2023年 2月 2 2 更新



CONTRABASS COMPLEX

コントラバスコンプレックス

仕様書

能見 誠

コントラバス ソロ アーティスト

はじめに

2

コントラバスって、図体は大きいけど、いつも音楽の下支えをする縁の下の楽器です。単体で殆ど聴かれないし、目立った奏者もいません。そんな楽器を私は、人生をかけて関わり愛し続けてきました。不器用で、とても温かみのある楽器で、片時も離れたくない気持ちいっぱいなのです。

コントラバスを輝かせ、主役にしたい。この想いでこの仕様書を作りました。それは、社会の中で、光の当たらないで世の中をさせている多くの方々が、やはり音楽の世界でも埋もれているコントラバスが持つ能力の素晴らしさ、可能性の無限さにふれ、自己承認を生み出し、勇気を与え、可能性に希望を持てるような思いを共有したく作りました。

成功体験とは、思いを共有し、共に歩む事で得られます。

自らを承認し、コントラバスと共に、希望ある新しい未来を創る成功体験を共有しませんか？

コントラバスコンプレックスは、新しい音楽ジャンルです。

コントラバスコンプレックス

- コントラバスの歴史① (- 17世紀) コントラバスが生まれる背景
- コントラバスの歴史②-1 (18世紀0 コントラバスが誕生する。その 1
- コントラバスの歴史②-2 (18世紀) コントラバスが誕生する。その 2
- コントラバスの歴史③ (19世紀～20世紀前半) コントラバスの成熟
- コントラバスの歴史④ (20世紀後半～ 現在) コントラバスの今、そして、未来、、、
- コントラバス進化の過程
- コントラバスコンプレックスの提案① 解放から承認へ
- コントラバスコンプレックスの提案② 音楽ジャンル
- コントラバスコンプレックスの機能 演奏形態
- コントラバスコンプレックスが提唱する 新しいコントラバスの定義
- 最後に

コントラバスって？

バイオリンの大きいもの？ 隅の方で弾いてる低音楽器？ ウッドベースと同じもの？
見たことはあるけど、あまり知らない、影の存在？

実は！

コントラバスは

いろんな音楽で活躍している楽器なのです。

ピアノみたいに、

コントラバスは

音楽の主役になれる楽器なのです。

ヴァイオリンみたいに、



コントラバスの音って？

コントラバスだけで聴いた事ない。低音で聞き取りにくい、目立たない、不器用そう、、、

なぜなら！

コントラバスは

他の楽器の音を包み込むような暖かい音

コントラバスは

メロディ、響き、リズムを支える音

楽器と楽器を繋ぐ存在

音楽を支えるとても大切な存在

コントラバスの存在って？

不器用な楽器なのです。

だから 発展に長い時間がかかりました。

だからこそ 暖かい音楽を届けることができます。

今!!

コントラバスは、進化しているのです。

コントラバスを音楽の主役にした様々な音楽をいろんな形で創作する。



コントラバスのコンプレックス化

コンプレックス (complex 英語) [Weblio辞書](#)

心理学用語＝様々な感情や思考などが無意識のうちに複雑に絡み合った複合的な集合体。

コントラバスのコンプレックス化とは？

コンプレックスとは？

様々な感情や思考 などが、無意識のうちに 複雑に絡み合った 複合的な集合体。

様々な感情や思考

様々な音楽を作曲、編曲、再構成。
演奏方法、表現方法の開発。

複雑に絡み合った

多方面の音楽表現者たちが混在

複合的な集合体

新しい形態の表現ユニット結成。

進化している楽器、コントラバスを中心にして、新しい音楽を創る事。

コントラバスコンプレックス という団体を作りました。



CONTRABASS COMPLEX

コントラバスの可能性を見つけて新しい音楽を創り、演奏会やイベント、配信などでコントラバスの魅力を知ってもらい、音楽の感動を共有する活動をしている団体です。

コンセプト **共有、承認、創作**

コントラバスに特化した新しい音楽を、お届けします。

Q1. コントラバスと言う楽器って？

Q2. 特化した新しい音楽って？

Q3. どうやって届けるの？



Q1 コントラバスと言う楽器って？

10

そのまえに **そもそも、楽器って？？？** [Wikipedia](#) 参照

音を出すものの全てが楽器なのではなく、『音を出すためのもの』が楽器であり、言い換えると、音を出すことを目的とするものが楽器である。
音楽に使用される音を出す器具。

アヒルも、フライパンも
デندن太鼓も、ピアノも
ヴァイオリン、コントラバスも

楽器なの？



A1. 楽器をの完成度によって区別してみました。

11

楽器

- コントロールできるもの
- 形状が維持できるもの



特殊楽器（音具）

- 再演できるもの
- 量産されているもの
- 演奏技術が伴うもの
- 演奏技術が共有できるもの



正楽器

- 形状に一貫性がある
- 専門奏者を必要とする
- 専用の楽曲がある



成熟楽器

- 音楽の主役になれる
- 様々な音楽に参加



コントラバス主役の専門奏者はいます。
主役の音楽もありますが、あまり知られていません。

A2. コントラバスは創作楽器なのです。

12

創作楽器

※現在、楽器、奏法が発されている

- 調弦の開発。現在5種類の調弦が存在。
- 折りたたみコントラバス、ハイブリット弓。
- 子供用コントラバス（メソード）
- ワイヤレスピックアップ、マイク、エフェクター、他

- ヴァイオリン曲、ギター曲を演奏
- コントラバスだけのオーケストラ
- 古い曲をオリジナルで再演



ヴァイオリン、ピアノは形状が決定している弦の本数、調弦、鍵盤数 色、サイズは世界統一されています。19世紀には完成。

ヴァイオリンでコントラバスの曲は演奏できません。楽器の開発がされていないので新しい仕様の楽曲も生まれていません。

コントラバスは現在、進化している、創作楽器。

Q2. コントラバスに特化した音楽って？

13

様々な感情や思考：様々な音楽を作曲、編曲、再構成。演奏方法、表現方法の開発、向上。

コントラバスを音楽の主役とした楽曲製作

複雑に絡み合った：多方面の音楽表現者たちが混在

各方面からの専門家の招聘、独自ルールの制定

複合的な集合体：新しい形態の表現ユニットを開発。

機能的な新しい演奏形態の考案

様々な感情や思考：様々な音楽を作曲、編曲、再構成。演奏方法、表現方法の開発、向上。

コントラバスを音楽の主役とした楽曲製作

コントラバスの歴史を 知ろう！

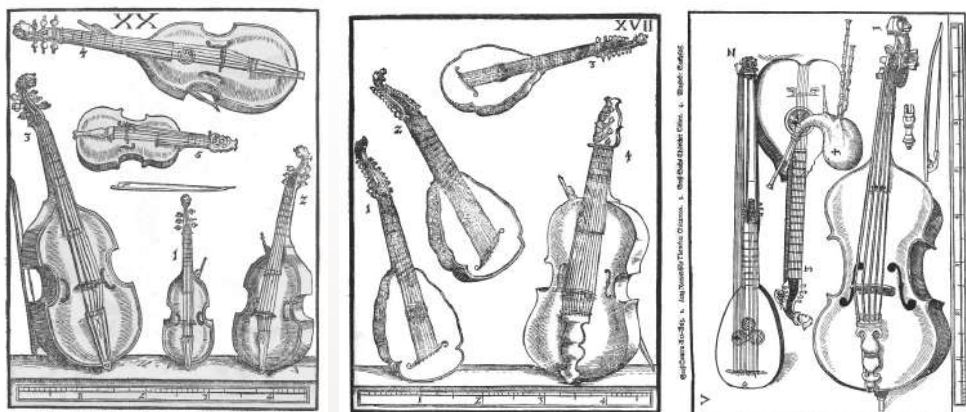
コントラバスの歴史① (～17世紀) コントラバスが生まれる背

景

類似する低音弦楽器であるチェロがヴァイオリン属の楽器であるのに対して、コントラバスに見られる、様々な形状、奏法の特徴はヴィオラ・ダ・ガンバ属に由来する。コントラバスは **ヴァイオリン属とヴィオラ・ダ・ガンバ属の中間に位置する楽器** となっている。

[Wikipedia](#) 参照

17世紀ヨーロッパ では、様々な種類の弦楽器があった



ドイツの音楽理論家 M.プレトリウス [音楽大全](#)参照

胴体の形、大きさ、弦の本数、それらに伴う奏法がたくさんあった。音楽は宗教性が強く、楽器の指定はなく、そこに楽譜があり、それをどの楽器を使って演奏するかは、走者委ねられていたが、教会など、神聖な場所ではヴァイオリン属、社交界、家庭などではガンバ属が選ばれていたそうである。

コントラバスは、主に楽器を弓で 擦る (こする) 弦楽器 (擦弦楽器) (ヴァイオリン属+ガンバ属) $\div 2 = ?$ 明確に存在していない。

ヴァイオリン属

- ・弦の数 = 4本 (共鳴弦なし)
- ・フレット=なし
- ・ボディ = 統一されている
- ・チューニング = 主に5度

まとめてみると、



ヴィオラ・ダ・ガンバ属

- ・弦の数 = 任意 (共鳴弦あり)
- ・フレット = ある
- ・ボディ = 任意
- ・チューニング = 任意

A.キルヒヤー [普遍音楽調和と不調和の大いなる術](#) 参照

発展

様々な形状の擦弦楽器

他の楽器の補助で使用。専門奏者不在。



コントラバスの歴史②-1 (18世紀) コントラバスが誕生する。その1

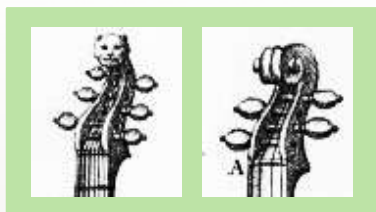
16

様々な形状の擦弦楽器 他の楽器の補助で使用。専門奏者不在。

18世紀半ばに起こった産業革命

金属製のペグ（糸巻き）の登場

17世紀以降、弦楽器は音楽の発展と共に自然淘汰され、現在のヴァイオリン、ビオラ、チェロ、コントラバスになっていきます。その過程でコントラバスに、大きな変化が起きます。



木製で弦を留めているため張力の維持に限界があり、大きな音も出ない。

A.キルヒャー **普遍音楽** 参照



Baker Model Double bass tuning machine heads



金属弦を張る事ができる。大きな音が出るようになる。
またボディが補強され頑丈になる。

金属製ペグをの効果。

- 金属弦が使われるようになり 音響が向上する。
- 金属弦の量産によって、楽器サイズが限定される。
- 演奏技術が統一され始める。



- 楽器が質が向上する。
- 演奏技術が安定する。
- 楽器の数が増える。



- 演奏機会が増える。
- 演奏者が増える。
- 演奏技術が向上する。
- コントラバスの名手が増える。

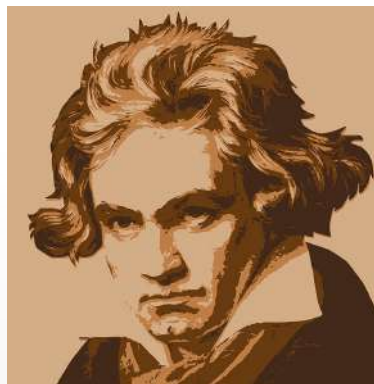


- 存在価値が高まる。
- 人気が出る。
- コントラバスの作品が必要になる。

発展



コントラバスに初めて独立した楽譜を作った作曲家

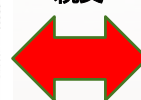


L.V ベートーヴェン (1770-1827)

交響曲第3番変ホ長調 作品55 「英雄」 第2楽章 冒頭



親交



史実に残る世界初のコントラバスの名手

D.C.N ドラゴネッティ (1763-1846)

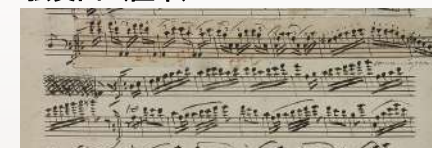


ドラゴネッティが使用していた弓



ジャーマン弓の原形と言われている。

ドラゴネッティ作曲
独奏曲 (直筆)



現在の演奏技術でも難しい曲

ベートーヴェン以前のオーケストラでのコントラバスの楽譜

それまではコントラバスパートは、チェロと同じ楽譜で書かれていた。
(コントラバスは表記より1オクターブ下で演奏されている。)



チェロと同じ楽譜!

WA モーツァルト 交響曲第40番 ト短調 K550 第1楽章 冒頭

ドラゴネッティとベートーヴェンが共演した時の書簡

<前略> 史上最高のコントラバス奏者の ドラゴネッティ氏の伝説的な評判は、彼がコントラバスでベートーヴェンの「チェロ ソナタ 第2番 作品5」を、ベートーヴェンと一緒に演奏したときに確固たるものになりました。終演後のベートーヴェンの喜びはあまりにも大きく、彼はドラゴネッティと彼のコントラバスの両方を、抱き寄せたようです。<中略> ベートーヴェンが、その後、大胆で挑戦的なコントラバスパートを書いたのは、本当に最高品質のコントラバス演奏との出会いのおかげでした。

[CLASSICAL MUSIC WORLD RADIO](#) 参照

正楽器 コントラバスの誕生

専用楽譜を作成 専門奏者誕生

発展



コントラバスの歴史③ (19世紀～20世紀前半) コントラバスの成 熟

18



巨匠 ヴィルトーゾ 独奏コントラバスの世界 G. ボッテシーニ

Giovanni Bottesini 1882-1889

19世紀、西洋音楽は、ロマン派、近代音楽への発展。コントラバスも重要な役割を果たしながら発展する。演奏技術に特化したコントラバスの名手が現れ、多くの作品が生まれる。

ボッテジーニの超絶技巧はその現役時代高い評価を得て、異名をほしいままとした。コントラバスという楽器が多様な音色をもった立派な独奏楽器たり得ることを示した功労者といえる。ボッテジーニはフランス式運弓法を初めて適用した。また、独奏のための弦（ソロ弦）調絃（ソロチューニング）を考案、現在のコントラバス独奏の定番となっている。

◆ アルコ奏法（弦を弓で擦る（こすく））＝ 擦弦（さつげん） 楽器

20世紀初頭より、大衆娯楽としてのジャズが流行、ニューヨーク、コットンクラブ、専属楽団の、デュークエリントン楽団が、チューバに変わって初めてコントラバスが登場したと言われている。その後、数々のバンドがコントラバスを登用し始めた。ジャズでのコントラバスは2つの奏法を用いた。

◆ ピチカート奏法（弦を指で撥く（はじく））＝ 撥弦（はつげん） 楽器

◆ スラップ 奏法（弦やボディを叩く（たたく））＝ 打弦（だげん） 楽器

JAZZ

ジャズベースの登場

成熟楽器
ヴィルトーゾ
コントラバス
巨匠、ジャズベースの誕生
様々な音楽に参加

20世紀に起きた技術革新（電気、レコード ラジオ テレビに発明）による進化

演奏に際し、ピックアップ（マイク）やアンプ（拡声器）を使う様になり、レコードで演奏を残す様になります。

- ・ フランス式弓の開発
- ・ ソロ弦の開発
- ・ ベース専用マイクの開発
- ・ ベース専用アンプの開発
- ・ 録音技術の開発

- ・ 奏法が開発される
- ・ 技巧系楽曲が発表
- ・ 音量の負担が軽減される
- ・ 演奏記録が残る。

- ・ 知名度が上がり、人気が出る
- ・ 音楽を何處で聴くことができる
- ・ 存在価値が上がる。

発展

◆独奏コントラバスの世界

ヴァイオリン、チェロの名曲をコントラバスで演奏

サラサーテ＝チゴイネルワイゼン JSバッハ＝無伴奏チェロ組曲 ドボルザーク チョロ協奏曲 他

有名な作曲家たちがコントラバスの楽曲を作曲

ニノ・ロータ：コントラバスのためのディベルティメント ラロ・シフリン：コントラバス協奏曲
久石譲：コントラバス協奏曲。 アストル・ピアソラ：キーチョ 他

◆ジャズベースの世界

弾き語り奏者の登場

エスペランサ・スポルディング ニッキ・パロット

様々な音楽を演奏

フラメンコ＝アダム ベン エルザ ワールドミュージック＝レナルド ガルシア フォンズ

◆コントラバスに特化したバンド

コントラバスとは、

ヴィオール属、ガンバ族の影響を受け、17世紀に生まれた西洋楽器。大きさ、形状は限定的されないが、金属製ペグ（糸巻き）を装着している。弦の本数は3本から5本。調弦は5種類。弓は3種類、を用い、また、指ではじくなど行い様々な音楽に対応している。専用ピックアップ、アンプなどを用いて演奏される事もあり、多様性に富んでいる。



調弦名	開放弦の音名（高い音から）				
オーケストラ調弦	G	D	A	E	C or H
ソロ調弦	A	E	H	F#	
五度調弦	A	D	G	C	
ウィーン調弦（古楽）	A	F#	D	A	
ハイソロ調弦	C	G	D	A	(E)

上から、
フレンチ弓、ハイブリット弓、ジャーマン弓



金属製ペグ



専用
マイク



ベース
アンプ

コントラバス＝ジャズベース
同じ楽器です。

コントラバスは現在、進化している創作楽器です。

参照① コントラバスの進化の過程（他の楽器との対比）

21

音を出すもの				
楽器	特殊楽器（音具）	正楽器	成熟楽器	創作楽器
<ul style="list-style-type: none"> 音楽に使用する コントロールできるもの 	<ul style="list-style-type: none"> 再演できるもの 量産されているもの 演奏技術が伴うもの 演奏技術が共有できるもの 	<ul style="list-style-type: none"> 形状に一貫性がある 専門奏者を必要とする 専用の楽曲がある 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽の主役になれる 様々な音楽に参加 	<ul style="list-style-type: none"> 楽器が開発されている 新しい音楽が生まれる

特殊楽器
様々な形状の擦弦楽器
他の楽器の補助 専門奏者不在

正楽器
コントラバス誕生
専用楽譜を作成 専門奏者誕生

成熟楽器
ヴィルトーゾコントラバス
巨匠、ジャズベースの誕生 様々な音楽に参加

音を出すもの	楽器	特殊楽器	正楽器	成熟楽器	創作楽器
アヒル					
フライパン	○				
でんでん太鼓	○	○			
シンバル	○	○	○		
ヴァイオリン	○	○	○	▲	
ピアノ	○	○	○	○	
コントラバス	○	○	○	○	○

創作楽器 コントラバス
今でも楽器は開発されてる。新しい音楽が生まれる。

様々な感情や思考：様々な音楽を作曲、編曲、再構成。演奏方法、表現方法の開発、向上。

コントラバスを音楽の主役とした楽曲製作

コントラバスの 演奏方法を知ろう

コントラバスの演奏方法

オーケストラなどで最低声部を受け持つ弦楽器。クラシック音楽では主に弓を使って演奏するが、ポピュラー音楽では一般的に指を使って演奏する（ピチカート奏法）4本または5本の弦を持つ大型の弦楽器である。短縮して単にバス、もしくはベース (Bass) と呼ぶこともある。コントラバス、ダブルベース、アップライトベース、アコースティックベース、ウッドベース、弦バス（和製英語）などの呼び方が存在する。

[Wikipedia](#)

参照

特殊楽器

様々な形状の擦弦楽器

他の楽器の補助 専門奏者不在

- ・ 演奏者によって楽器によって異なる。
- ・ 調弦は自由。

正楽器

コントラバス誕生

専用楽譜を作成 専門奏者誕生

- ・ 弓は下手持ちが主流。
- ・ 教則本はまだ独自で、作られる。

成熟楽器

ヴィルトーゾコントラバス

巨匠、ジャズベースの誕生 様々な音楽に参加

- ・ 教則本できる。（シマンドル1巻2巻）
- ・ 弓、2スタイル、調弦 2種類
- ・ ジャズベース、スラップ、ピチカート奏法の登場

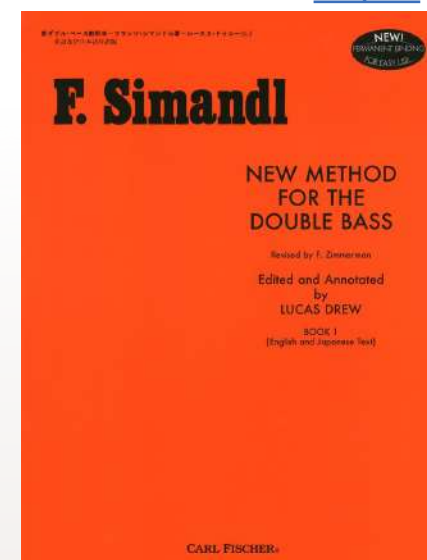
現在

- ・ 5種類の調弦が存在。
- ・ 折り畳みコントラバス、ハイブリット弓、の開発。
- ・ 多くの教則本、子供用メソッドの開発。

コンプレックス化

コンセプト

共有、承認、創作



現在でもコントラバスの定番の教則本になっています。

コントラバスとは、
弦を指ではじく、弦を弓でこする、楽器をたたく、事で演奏される弦楽器です。

撥弦楽器 = はじく

ピチカート（指）奏法
ジャズベース ウッドベース
主にポピュラー音楽での使用される。



擦弦楽器 = こする

アルコ（弓）奏法
コントラバス、ダブルベース 主
にクラシック音楽で使用される。

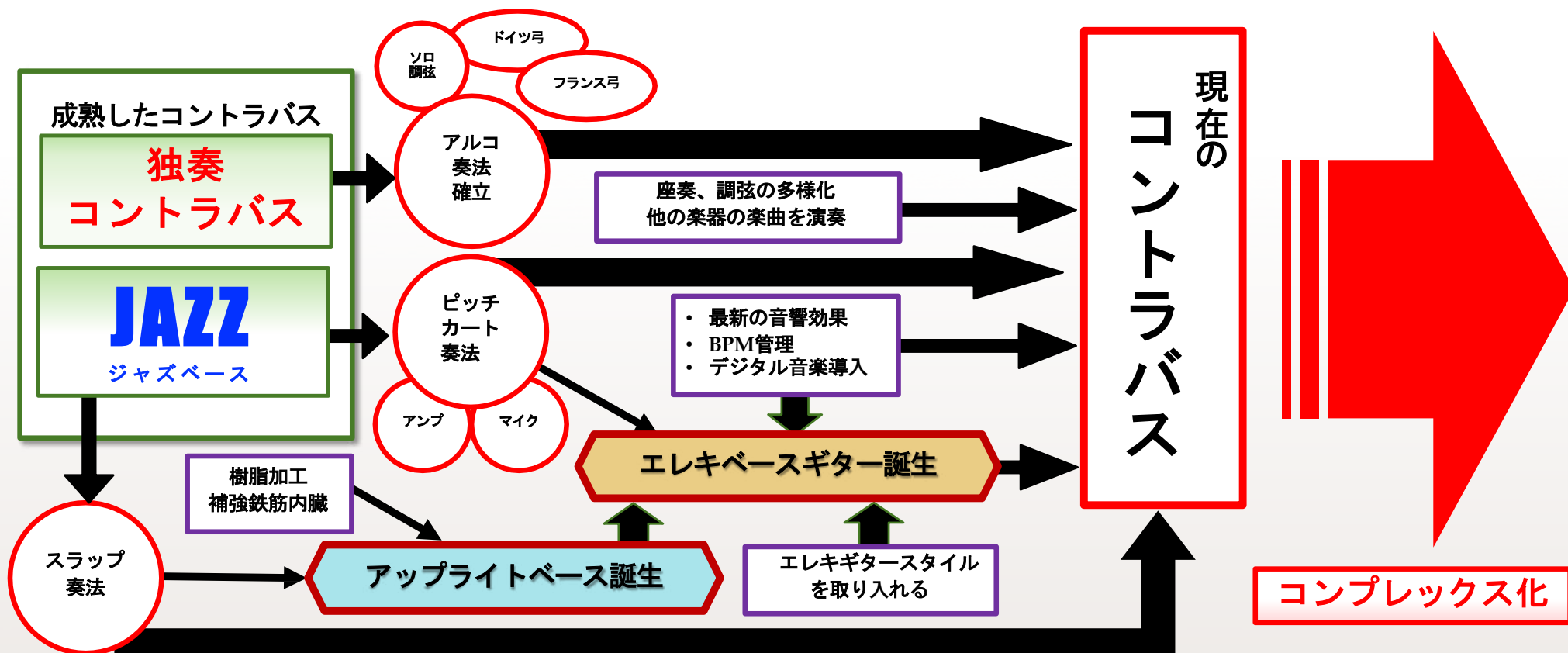


打弦楽器 = たたく

スラップ（叩）奏法
アップライトベース 他
ロカビリー、その他、創作音楽で使用される。



コントラバスは現在、進化している創作楽器です。



様々な感情や思考：様々な音楽を作曲、編曲、再構成。演奏方法、表現方法の開発、向上。

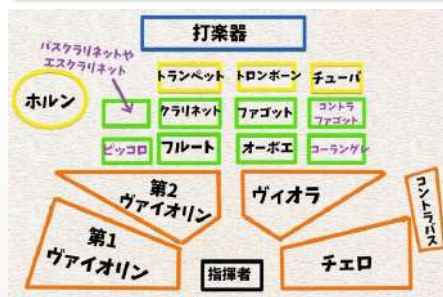
コントラバスを音楽の主役とした楽曲製作

コントラバスの 演奏形態を知ろう

成熟楽器

ヴィルトーゾコントラバス

巨匠、ジャズベースの誕生 様々な音楽に参加

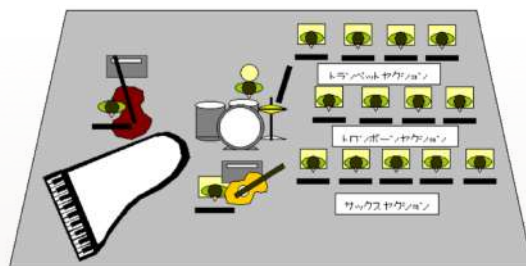


- 一般的なオーケストラの配置図

※ 参照 [オーケストラの楽器配置](#)

例外1
協奏曲の場合は、ソリストの位置

例外2
バンドマスターがベーシストの場合は。前列



- 一般的なビッグバンドの配置図

※ 参照 [ビッグバンドの楽器配列](#)

現在

コントラバス中心の形態には
なっていない。

コンプレックス化

複合的な集合体 : 新しい形態の表現ユニットを開発。

機能的な新しい演奏形態の考案

コントラバスコンプレックスの機能 演奏形態

◆コントラバスコンプレックス 各パート紹介

- **Top** (トップ) メロディーラインを担当。ソリスト
- **Utility** (ユーティリティ) 中声部を担当。他のセクションをサポート
- **Bottom** (ボトム) ベースラインを担当。(音楽によって専門性必要)
- **Libero** (リベロ) 楽曲に応じて存在するポジション パフォーマンス担当

【形態実例】

クラシック音楽系 4人編成



オーケストラ奏者

コンテンポラリー 5人編成



ダンサー、歌手 DJなど
(場所は流動する)

ジャズ系音楽 4人編成



ジャズベーシスト

最小人数編成



もしくは

PCを導入した音楽 6人編成



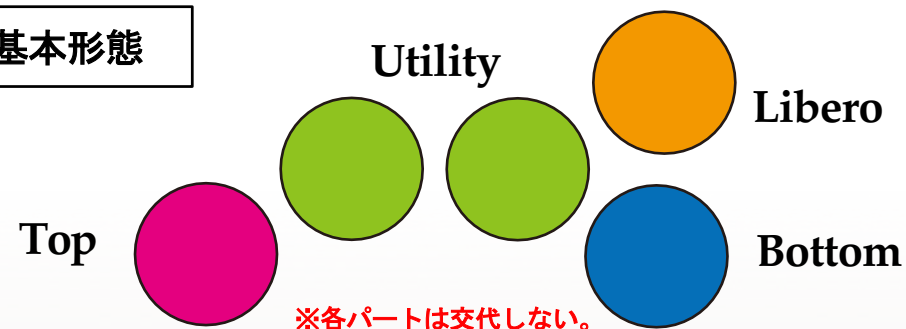
BPM管理 ルーパー

これら全てを一回のコンサートで演奏する場合。

8名の奏者が必要。

Top 1 Utility 3
Bottom 2 Libero 2

基本形態



編成の規模が変わっても、同じコントラバスであってもパートは交代しない。
ただし、楽曲の特徴に合わせてユーティリティ奏者が柔軟に対応する。

演奏者のポテンシャルを優先

様々な音楽に対応している楽器だからこそ特有の人材を生かした配置この演奏形態に合わせて現存するコントラバス重奏音楽を再構成する。

CONTRABASS COMPLEX
コントラバスコンプレックス
が目指すところです。

様々な感情や思考：様々な音楽を作曲、編曲、再構成。演奏方法、表現方法の開発、向上。

コントラバスを音楽の主役とした楽曲製作

コントラバスの 音楽を知ろう

正楽器 コントラバス

18～19世紀（古典音楽、ロマン派前期）

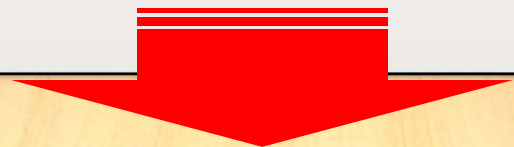
著名な作曲家が作った楽曲			コントラバスに特化した楽曲（無名）		
作曲家名	楽曲名	特徴	作曲家名	楽曲名	特徴
W.Aモーツァルト	アリア「その美しい手と瞳の為に」 K.612	バリトンとコントラバスが主役の歌曲	ドラゴネッティ	協奏曲 ほかに多数。12のワルツなど	コントラバスの名手 ベートーヴェンに影響
L.V ベートーヴェン	七重奏曲	当時の人気曲	ディッターズドルフ	協奏曲 他	ビオラ奏者
シューベルト	ピアノ五重奏曲「鱒」	室内楽曲定番	ヴァンハル	協奏曲	チェロ奏者
ロッシーニ	二重奏曲	チコロとコントラバス	シュペルガー	フルート四重奏曲 他	コントラバス奏者

※ ベートーヴェン以後、オーケストラでは独自パートを獲得

成熟楽器 コントラバス

19世紀～20世紀前半（ロマン派後期、近代 現代音楽）

著名な作曲家が作った楽曲			コントラバスに特化した楽曲（無名）		
作曲家名	楽曲名	特徴	作曲家名	楽曲名	特徴
ストラビンスキー	兵士の物語	劇版テイスト	ボッテシーニ	協奏曲 他	技巧的、ソロ弦
マーラー	交響曲第1番 巨人	第3楽章 冒頭 ソロ	シマンドル	30エチュード他	定番教則本
サンサーンス	動物の謝肉祭 象	定番曲	グリエール	タランテラ 他	ロシア
プロコフィエフ	五重奏曲	Vn Va Cl Ob Cb 編成	クーセヴィツキー	協奏曲 他	定番曲



成熟楽器 コントラバス

20世紀後半～現在

◆ たくさんのオリジナル作品が作られるようになる。

ニノ・ロータ：コントラバスのためのディベルティメント ラロ・シフリン：コントラバス協奏曲
久石譲：コントラバス協奏曲。 アストル・ピアソラ：キーチョ 他

◆ ジャズの要素を取り入れた楽曲が生まれる。

ヒンデミット：ソナタ デザンクロ：アリアとロンド ラバス：カルメンファンタジー 他

◆ 様々な他の楽器のために作曲された楽曲を演奏する。

バッハ：無伴奏チェロ組曲 ハイドン：チェロ協奏曲 ドボルザーク：チェロ協奏曲
モンティ：チャルダッシュ サラサーテ：チゴイネルワイゼン 他

現在

様々なコントラバス奏者たちが混在

コンプレックス化

コンセプト

共有、承認、創作



様々なコントラバス奏者たちが混在

= コントラバスはあらゆるジャンルに現れる楽器なので
今までの音楽のジャンルでは区別できない。

音楽の特徴で区別する。

コンプレックス化



コンセプト

共有、承認、創作

音楽の在り方で区別する。

新しい音楽の区別



創作音楽：創られる音楽

オリジナル作品、
作曲編曲は問わない。



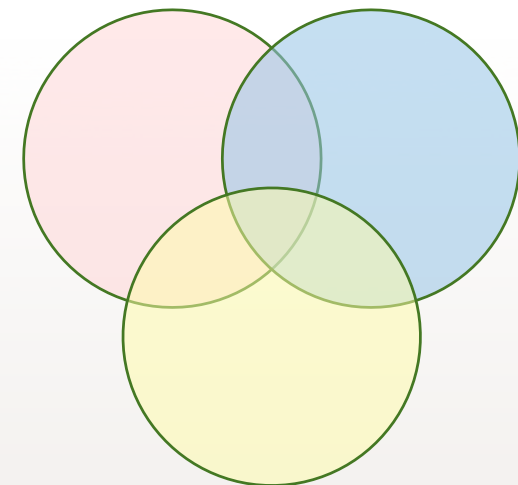
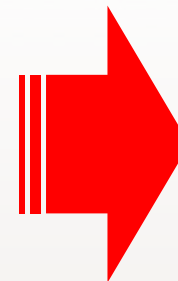
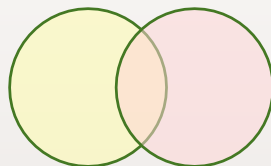
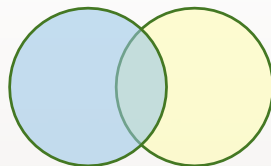
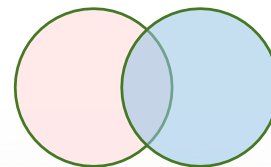
伝統音楽：受け継がれる音楽

慣習に基づいてあるもの。
音楽の正解がある音楽



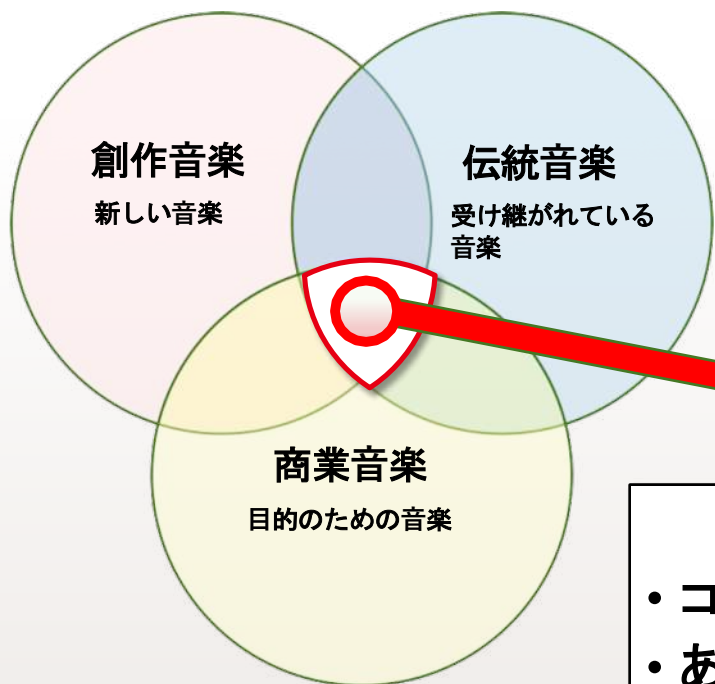
商業音楽：目的がある音楽

営利に限定されないが
達成に関する評価がある音楽。



音楽をこの7つのエリアに分類

◆ 音楽の在り方で区別した表



- 創作音楽と、伝統音楽のコラボ作品
- 伝統音楽と、商業音楽のコラボ作品
- 商業音楽と、創作音楽のコラボ作品



あらゆる音楽ジャンルを共有した音楽



創作楽器 コントラバスに特化

あらゆる音楽に関わっているコントラバスは
“コントラバスのみでの音楽制作”が可能です。

区別する人の、立場、見方、時間
によって、変化する。
共通性はない。

共有

CONTRABASS COMPLEX
コントラバスコンプレックス
が目指すところです。

- ・コントラバスの伝統的手法に基づいた音楽制作
- ・あらゆるジャンルのエッセンスを取り入れた作品を展開
- ・新しい音楽発想、形態、提案。

創作

奏法の解放

座奏、レフティ奏者 誕生

- ・ 擦弦＝アルコ奏法＝クラシック音楽
- ・ 撥弦＝ピチカート奏法＝ジャズ
- ・ 打弦＝スラップ音楽＝ロック系ポップス

演奏形態の解放

マルチプレイヤーの誕生

- ・ ピチカートに特化したクラシック演奏
- ・ アルコでジャズスタンダード演奏
- ・ 演奏を超えるパフォーマンス

音楽スタイルの解放

音楽コラボ作品が生まれる

- ・ アドリブのあるクラシック作品
- ・ シンフォニックジャズ
- ・ 音加工を行うプログレッシブロック

解放

コンプレックス化

個人の演奏スタイル個性を承認。

独自の演奏形態を提案。
お互いのポジションを承認。

承認

音楽スタイルの特性を承認。音楽の再編。

コントラバスは、17世紀から存在する伝統楽器である。また、他分野での活躍する楽器でもあるので、そのポテンシャルを承認した上での新しい、創作、解放が可能と考えます。

CONTRABASS COMPLEX
コントラバスコンプレックス
が目指すところです。

私は、唯一無二でコントラバスが主役になる演奏活動がしたいと考え音楽家になる道に進みました。東京藝術大学卒業後、まずは、プロコントラバス奏者として実績を積み成功を収め、その後、大衆音楽（ジャズ、ポピュラー音楽）のベーシストの研鑽を積みました。私は、クラシック奏者の持つべき音楽の普遍性、慣例に基づく様式美への追及、そこから派生する創造性と、大衆音楽のミュージシャンの、内面から沸き立つ信念、心理描写、そういった動的抽象を表現する創造性は、決して共存することは、ありえない、と考えました。特に、コントラバスは、それぞれ分野で重要な役目を担っており、それぞれに揺るぎない音楽を熟知した専門家が存在しています。決して兼ねられるものではないと判断しました。私は、それぞれの分野の専門家として成功したかったので、時期をずらして研鑽しました。クラシック音楽研鑽時には、大衆音楽には触れていません。後から始めた、大衆音楽の研鑽時では、クラシック音楽での成果を封印し、葛藤のなか、より謙虚さ、誠実さを持って、初心に帰って、研鑽に励みました。その分、他者より長い時間を要しています。大衆音楽、とりわけジャズの研鑽の成果として自己ユニット結成、演奏技術、集客、収益面で成果を実感し始めた頃、私は、タンゴという音楽に出逢いました。タンゴに触れた時、私の中で双方の創造性が融合し、独自の音楽感覚が開花しました。その後、タンゴ奏者として頭角を表し、現在、どちらの音楽分野においてもそれぞれの分野のアーティストとして活動できる唯一無二の存在である事を自負しております。そして、幅広い豊富な音楽経験を背景に、数々の創作作品を提案しているアーティスト、コントラバスソロアーティストを定義して2012年より創作活動を始めました。

2017年には、クラシック作品 オペラ「カルメン」を素材に創り出した カルメンラブソディ

ジャズユニットから生まれ、木管オーケストラでの初演を成功。

2019年、自信作曲演奏の コントラバス独奏 龍神 は、厳島神社奉納コンサートにて披露されました。

コントラバスソロでの成果を経て次に思ったことはこれまでの音楽経験を活かして、コントラバスの更なる可能性を探究する上で、コントラバス複数での創作に取り組んでいます。私の存在を媒体として様々なジャンルのコントラバス奏者を承認し、共有させる事で、新しいコントラバスの音楽を創作したいと考えております。

その取り組みが、コントラバスコンプレックスです

クラシック音楽は音楽再構成を行い音楽本来のエッセンスを引き出す創作。新しい奏法の開発披露、大衆音楽では、スタンダード楽曲に改めて敬意を払いその肩に乗ってオリジナル作品の発表。いろんな物語への楽曲提供、あらゆる角度からコントラバスをアピールしていきます。

コントラバスを、同じ楽器によるアンサンブル、マルチ的な手法ではなく、用途や音楽の質に合わせて専門家を配置し、遺憾無くじつ力を発揮していただき、その上での独自のバンド機能を持たせます。PC音楽や様々な新しい手法を取り入れた舞台表現を創作します。

今後、コントラバスが益々進化を遂げていくと思います。その一翼を担える存在として発展していく事を望み日々創作に励んで行けたらと思います・

CONTRABASS COMPLEX 代表

コントラバス ソロ アーティスト 能見 誠

